

コミュニティ・スクール情報

2022. 11. 4

第3回 三川中学校学校運営協議会 議事録

令和4年10月24日(月)
12:00～15:00
三川中学校 3年学習室



- ◇授業参観 12:00～12:30
- ◇給食試食 12:30～13:00
- ◇協議会 13:10～15:00

1. 学校運営状況の説明 (橘 正敏 校長)

- 新型コロナウイルス感染症への対応を行いながらの学校運営になっている。生徒は、全体的に落ち着いた学校生活を過ごしている。
- 3年生は、家庭のご理解を得たうえで東京方面へ修学旅行を実施することができた。見学等のタイミングもよく思い出がくれたと思う。また、帰宅後も全員検査を実施している。
- スポーツ、文化面での活躍が目立った。
田川駅伝・田川地区総体・県総体・田川地区新人戦・吹奏楽コンクール・少年の主張・読書感想文
- 「魅力ある学校づくり調査研究事業」にかかわる生徒の声アンケートでは、課題であった自尊感情の面でも自信をもてるようになってきている。
学校が楽しい 87.7% (3学年平均) みんなで何かをするのは楽しい 95.7%
授業に主体的に取り組んでいる 91.3% 授業がよくわかる 80%
自分にはよいところがある 73.7% 先生は、あなたのよいところを認めてくれる 92.7%
- 全国学力・学習状況調査の結果から、一層、チャレンジする気持ちを育てていきたい。
学力の平均正答率 国語 全国<山形県<三川中 数学 全国<山形県<三川中
理科 三川中<全国<山形県 (僅差ではある)
- 生徒質問紙で県・全国を上回った項目
 - ・朝食を毎日食べている。
 - ・将来の夢や目標を持っている。
 - ・自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある。
 - ・今住んでいる地域の行事に参加している。
- 生徒質問紙で県・全国平均を下回る項目
 - ・自分にはよいところがある。
 - ・先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う。
 - ・自分でやると決めたことは、やり遂げようとしている。
 - ・難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。
 - ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
 - ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。
- いじめの認知件数
今年度調査 男子13件 女子4件
- 不登校生の人数
今年度現段階 5名 (90日以上1名)
- 学校行事や学習にかかわる課題として (コロナ禍で落ち込んだりしたことへの対応)
キャリア教育にかかわる事業所訪問
演劇教室の実施に向けた課題



協議の中での話しから

- ・生徒質問紙の下回った項目で感じることはあるが、年頃や土地柄もあるのだろうがなかなか自分をだして物事に取り組むことについては苦手としている生徒が多いように感じる。自分でやり遂げようとしたり自分を表現しようとするのは確かにもっと期待したいことであるし教えてやりたいことである。
- ・失敗を恐れず取り組むことについては大事ではある。この3年生は、コロナ禍での入学で、話しすることが制限されたり家庭で待機する期間もあり、影響がなかったとはいきれない。その中で、今年度のよい結果を残していることは評価してあげたい。
- ・新人戦の壮行式を通し3年生の思いが強く感じられた。3年生の成長を感じる壮行式であった。運動会等の行事を通して成長したものと感じる。いいものをたくさんもっている3年生で、学年集会で発表する機会や部活動など気心をした仲間での話し合いの機会などを学年で仕組んできたことが生きてきている。
- ・生徒質問紙の項目で、将来の夢や目標を持っている生徒が多いので、小さなことでも役割を与えて達成感を感じさせてやるのが自信を高めていくことになる。
- ・自分の出番があるということは大切で成長につながる。生徒指導の三機能である、自己決定、自己存在感共感的な人間関係の育成がやはり大切である。
- ・他校との交流機会などは、子どもたち自身が感じ取った他校の良さを知る機会であり、また、自分たちに不足していることを認め伸ばすチャンスでもある。同じ課題を抱えるもの同士での交流も今の時代はよい方向に行くように感じる。中学生同士でなくとも、一般団体との交流もコロナ禍でなければよい。
- ・中学生と町内会とのつながりが少なくなっている。地域との関わりがもっとあればよいし、その機会をつくれたらよいと感じている。子どもの人数が減少してきたことや部活等で忙しすぎることもある。地域で中学生の活躍の場をつくってやることも大切なのではないかな。

部活動の地域移行に関わる話し合い

- ・この機会をいかして、地域ではどんなことができるかを考えたい。また、三川町のスポーツ、文化組織の改革も必要としてきているのではないかな。
 - ・生徒数が減少する中で、三川町だけでは子どもが満足できる環境を整備することが難しくなっている。他市町村と協力しての環境整備が必要とされている。「地域」という考え方をもっと広く考えることが必要になっている。
 - ・大会がどうなるかわからないなかで地域移行を考えなければならないのが苦しい。競技連盟や中体連や指導者間で総合的に検討することが必要である。
 - ・部活動は、生徒と先生（顧問）との関わり、地域（コーチや保護者）との関わりでこれまで取り組んできた。その関係性がなくなることで危惧されるのは子どもへの影響である。
 - ・以前から複数指導者体制に取り組み、委員会が指導者として委嘱し、土日の部活動は教員が参加しない方向を取ってきた近隣の町の事例もある。指導者報酬については課題ともなる。
 - ・三川町として、今後を見据えた全体的ビジョンが見えていないことは住民参加につながっていない。
- 笹原指導主事から現在進行中の「三川町スポーツ文化機構」に関わる説明があった。
- ・地域移行が可能な部活動からモデル的に実施していくことには賛成である。
 - ・これまでの中学校部活動については継続しつつも、土日の活動をこの機構が対応していくという解釈でいいのだと考える。
 - ・まだ課題は多くあり、指導者の報酬や大会引率等の問題も今後つめていかなければならない。
 - ・地域開放となった時の施設問題も経費がかかることであり大きな課題となる。
 - ・鶴岡市は、現状としてこの問題を学校まかせにしているケースがあるようだが、三川町は委員会で検討していただいているということでもっとありがたいことである。

